

明るい衛生環境づくり 宮城衛生環境公社

会社概要

会社名	株式会社宮城衛生環境公社
所在地	宮城県仙台市青葉区熊ヶ根 字野川26-6
創立	昭和57年2月26日
資本金	3,000万円
事業内容	廃棄物処理業・清掃業
従業員数	180名（2025年8月現在）



主な業務内容

- 一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理産業廃棄物
収集運搬、産業廃棄物安定型最終埋立処分場
- 太陽光パネルリサイクル中間処理施設
建築物飲料水貯水槽清掃業、建築物排水管清掃業
- 上下水道管、その他配管清掃、上下水道維持業
- 浄化槽、污水处理施設維持管理
- 清掃、除雪
- 凍結防止作業、雑草除去作業
- 各種解体
- 土木舗装工事一式



脱炭素への取り組み

■自家消費型太陽光発電設備(2020年2月～)

太陽光発電とJ-クレジットで「再エネ100%」を実現。

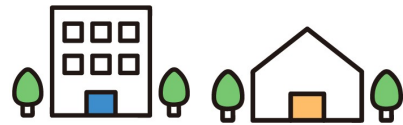


■再エネ活用とBCPの体制の構築

災害時でもライフラインとしての事業をとめることがないように構築。

太陽光発電

事務所とリサイクル工場



蓄電池からの給電ができるため、停電時でも電気を使うことができます。

EVパワーステーション

通常時は営業車として活用。
停電時は蓄電池として機能する。



◀持ち運び可能蓄電池

■東北初！次世代バイオディーゼル燃料

(サステオ)

サステオを公道にてごみ収集車に使用しました。



サステオ使用車両

お仕事ノート

仙台市内小学3、4年生を対象にした“お仕事ノート”（副読本）に廃棄物処理・リユース＆リサイクルとして掲載されました。脱炭素や循環型社会など持続可能な社会を作り将来世代への波及効果をもたらします。



再エネを活用して脱炭素化に貢献



エコロジーセンター愛子

PVリサイクル事業

■エコロジーセンター愛子^{あやし}

エコロジーセンター愛子は**資源循環**がテーマの施設です。令和5年4月より稼働し使用済み太陽光パネルのリユースとリサイクルを行っています。使用済み太陽光パネルのリサイクルで環境負荷を最小限に抑え、資源を有効活用する取り組みを進めています。

地球環境を守りたい、地元で成長し地元根付き貢献をしていきたいという強い想いを込めて「エコロジーセンター愛子」と命名しました。

仙台市の環境見学施設のひとつとして登録（R7）されました。

視察、見学者（R7.8.15現在）

企業団体 74団体445名

町内会等 7団体135名



■リサイクルの流れ

アルミフレームと太陽電池モジュールを分離する機械

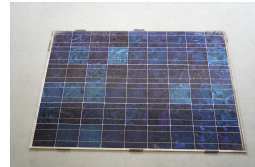


ガラスを破碎する機械



バックシートを破碎する機械

フレームを取り外した
太陽電池モジュール



ガラス

防犯砂利、路盤材



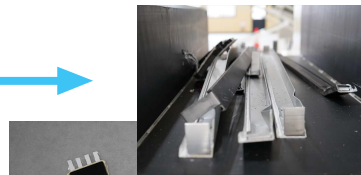
バックシートの粉碎

銀など有用金属の
抽出と原材料化

アルミ原材料

銅原材料

アルミフレーム



ジャンクションボックス



循環経済

■太陽光パネルの大量廃棄問題に寄与

○近年ではFIT制度の終了とともに、太陽光パネルが2030年に
最大50万トン/年に達する見込み。

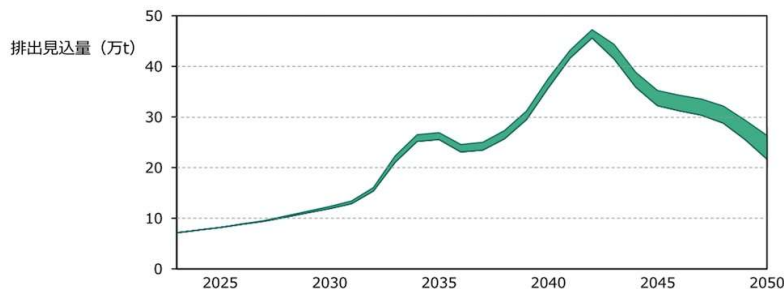
○すべてを埋め立て処分された場合、2021年の
最終処分量（**869万トン**）約5%に相当

⇒最終処分場のひっ迫

○不法投棄問題の懸念が増加

リサイクルによる廃棄量低減
(金属材料として再使用)

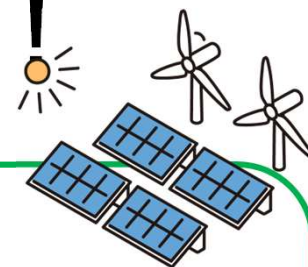
使用済み太陽光パネルの推計排出量



太陽光パネルの排出量予測 出典：太陽光リサイクル制度小委員会資料



持続可能な太陽光発電の事業支援のために！



設置



現時点では、使用済み太陽光パネルのリサイクルに関する法的義務は存在していませんが、将来的な義務化を見据え、早期にリサイクル体制を構築し使用後の安心付与による信用・信頼の増幅を目指します。



拡大支援

こうした先行的な取り組みにより、法制度への対応準備が整った企業として、発電事業者からの選定や活用が広がり、再生可能エネルギー関連事業の健全な発展に貢献しています。



維持支援

適切な処理体制構築により、ステークホルダーからの信用・信頼を獲得。これが、太陽光発電所をはじめとする事業の継続的な運営を支える基盤となります。



定着支援

適正・適切処理可能なリサイクル事業者を活用することで、太陽光発電事業の持続的な普及・拡大が図られ、社会インフラとして地域や産業に定着していくものと見込んでいます。

